一庵口義

150

門ヲ勉
編 650
巻

義濃守殿御三男

此書稲葉駿河守殿

招請茶事 稽古之日記也

厳酬院様常憲院様ノ時

稲葉義濃守殿 御老中 常憲院公ノ時

同 丹後守殿 御老中 後内匠頭

丹後守殿次男

駿河守殿 義濃守殿御老中之時達 上聞御用ノ書物

大御所様頭 千傳

達 諸武塾 別而学文歌学手蹟書 探幽ノ才子

利休七才ニ細川三斎公ノ茶長才

尾伊織殿 後 一庵 微斎 九十一卒去

方地無之部屋住ノ時

一庵口義 延享七年 七十三年ノ 正嘉記 廿七歳

寛文十三年癸巳三月十日於上屋浦初ル一庵ニ

参会則聞所ヲ記

一 四畳半の座敷にて茶の湯会乃事を問

一 茶て水指の釣瓶も半月の出たる乃事

一 茶入茶碗乃ゟ水指のおゝ又ハ花の座際胴竜柱ゟ

茶入の中すゝまて六寸にて釣事

一 茶碗釣瓶の事 茶の事あるかを病釣瓶を茶碗

水指のおく也 其際に茶碗をて釣事

一 水こゝ〳〵 釣瓶の事 九の脇事かけて釣〳〵

一 引切釣瓶の事

一 柄杓等ひづませて玉ゐるを水のるをうれバろくゝ
心かり

一 水乃所ハ我屋敷のそとうれより胴竈相まて八寸
程我国ゝ乃ゝ所ゝ所ゝ所ゝ大きゝ

一 同立ハの手を同

一 居茶屋を取炉 ふちニツよりて玉ゐるを一ツの玉我ゝ
茶屋のゆちゝ石の要目二ツ程乃ゝ玉ゐるを相茶
を取てあゝ玉袋の義ゝ ゝ袋ともこたのよゝ
水鉢の先ゝ玉具度毛を取ゝ ゝ袋ともこたのよゝ
水ハのあゝ玉茶入ハのゝ ゝ袋ともこたのよゝ
取あゝ玉 ゝ玉袋ゝ常水こゝの際ゝ玉ゐるゝ

にて茶入ハ拭毛の上ゝ玉ゐ茶ハ常ゝ拭茶入ハ
方ゝ居玉茶せんを茶の要ゝ茶の〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
玉ゐ手茶ゝ 水ハの上ゝ上ゝ茶の立ハ常但茶入
乃持ハて茶入ゝ上ゝ取ゝ思ゝ玉ゐ茶屋
取あゝ〇ゝ茶入ゝ唐物ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
すゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
たゝて取あゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
茶を入玉ゐ大手ゝあつゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
武ハ茶道立軸道具を大手ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
切茶立ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ
茶ハ中ゝ入ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ〇ゝ

宮ゝ[illegible]ゝ[illegible]水鉢の光ゝ[illegible]如り茶碗宮ゝり
帰ゝすきゝゝ茶せん又なのゝゝ右の方ゝりゝり
六ツ七ツ月一ゝ玉宮茶を居ゝ[illegible]ハ柄杓水こゝ[illegible]しの上
うゝ[illegible]ゝて玉ゝ[illegible]如水こゝ[illegible]ゝ[illegible]しのお玉杓ゝ[illegible]ゝて
居ゝ茶碗ゝ[illegible]ゝ帰ゝわりゝお唐柄杓ゝ切ゝ
ゝゝて居ゝ常茶碗帰ゝ一篇湯すきて
後水指の蓋ゝ茶入を宮ゝ入すゝ時ゝ[illegible]ゝ
中おくゝせぬゝゝて茶入ゝぬゝ常出ゝ[illegible]を
持て勝ゝゝこの柄ゝ[illegible]後茶ゝそゝて宮ゝ[illegible]
てみて其時茶入出ゝ事ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]せて出ゝ事も有ゝ
水こゝ[illegible]如水ゝ[illegible]ゝ常ゝ

一雑談　宮茶入を前ゝ[illegible]ゝ事ゝ常ゝ[illegible]ハ
亭主ゝ[illegible]ゝ水指の蓋ゝ[illegible]ゝ時茶入見ゝ[illegible]
ゝ出ゝ[illegible]時ハ[illegible]水指の蓋ゝて柄杓水鉢
勝ゝ入ゝて後茶入ゝ[illegible]ゝ

一亭主茶入を拭時蓋をあけて見ゝ[illegible]
心もゝゝ事ゝ[illegible]ゝ茶ハ俺ハ物淋しゝ[illegible]
乃人ゝて[illegible]ゝする時ハ自分茶入ゝ茶を入ゝ
こゝ[illegible]ゝ以ゝも自分ゝてゝ

一亭主茶を立て茶碗を出ゝ[illegible]ゝ時ぬくゝをまゝす
ゝ宮ゝ[illegible]ゝ茶碗を出ゝ[illegible]ゝ必ぬくゝを待ゝ
すゝ事ゝ[illegible]

一 粉奇なる物くさ〳〵ゑの時心持悪き事胴震ぬく〳〵長を立すして御すゝ常かりそれをちゝとろくむ
ゝ炉のぬちと長き箸のかゝひて思ひのまゝされとそ
初ゝゆゝめて主人あゝ初て成りとたろく。
主婦平志家の拵方陰たるもまハす心ゝき
かり

一 棚ゝ羽箒香合かゝ置拵長き柄ゝて香合をとさすぬ
手ゝ乾ハ壁の際香合を主其次ゝ羽箒をかけた壁と
箒ゆゝて香合をとさゝ
茶ゝて後柄杓ゝ切を柄ゝ主ゝ有遠ゝ又座ゝ来た
てんゝ杓ゝの時ハ柄杓を
杓ゝの時ゝ横ゝして主ゝ
ゝ

一 胡の東陽ゝ〳〵粉奇屋ゝ入お座ゝ手水ゝをす
夏晩の茶陽ゝハ必手水をはらひて粉奇屋ゝ今
ハ心ゝ朝ハ宿ゝて外を改ゝ
夏晩ハ胡ゝ其時ゝ
手水をつゝひ外をきよもる道理ゝ

一 柄杓ゝ掛中〳〵お座掛ゝ遠事ゝ芝ハ茶ゝ
水すゝ乃時ゝ
人指ゆゝて注ゝ〳〵炉ゝ
柄杓の〳〵ゝ掛の内ゝ入て手をもうたふ
柄杓乃柄を納事勿論ゝ

一かま、水をさす時かま掛をさる柄杓、うつむき、
取て水さしの口より、おかけて取出す事悪敷、
掛をする柄杓を取て、たのぶ、右の手にて
わるものゝ〻ゝ水を受かり

一かまのゆがまぬ事、掛事〻ハ釜ゆがゝる事
をハ客乃心なるかゝ〻ゝ)其ゆゑとゝろく掛る
客乃内心安き人あゝハ法会して成も出来
申し利休居子かゝ無心あき客なれハかゝ掛
時かまハゆがゝハぬとて掛替せゝ〻ゝ右の心なるも

一かまの蓋と申して門切の上、まて〻茶碗すゝ用ち
成わゝゆがまぬ掛我成も出来ても

是もたのかまの乃心にて蓋の上、ゆがゝて又ぶゝハ
客の心あゝあぶかゝあれ共(ゝゝと心附る事
めめさるかりとゝ申茶碗、茶を入テ口のふゝを取
さゝハゆゝてもかゝ口ゝ門切金物も構
成ゝすゝ客にて先茶のさめらぬ事一番也
かまのふゝろくたんとてねちゝくする事悪敷
ゆゝかり

一炭を入る時かまを上ハ釜瘡を奥の方へ出て釜を
上ゝ(ゝ惣して釜を引する事ゝ事分ゝる)
ぬゝ出ゝ時ち取ゝ出ゝる灰遠成ゝす大ふ
のわゝろくハ掃よゝ申ゝす事

一 棚、道具仮家、其外、杉戸ハ襖の方へ、きゆつ
襖の方へ、より〳〵る板戸、ハ、
つ、却て、そまよて、其外、と、ハ、あるなり

一 客数寄屋に入時、上客の座敷、て、
亭を出て、ハ、ハ、それ〳〵、ハ、
出て、腰掛の浦、より、外、て、客の方へ、先門に入
作て、ハ、ハ、と、中、之、其、ハ、先客、外、腰掛、ハ、時
亭、る、て、亭を出て、ハ、出、亭、時、亭、ハ、
客数寄屋、ハ、ハ、る、時、又、出て、礼、ハ、
腰掛、て、あ、ふ、れ、を、云、
る、と、ハ、れ、て、亭、る、出、て、き、言、
るきゆ（右のこと）客、ハ、上、と、続、る、客、ハ、
いつ、時、る、き、亭、る、内、て、い、と、
客、ハ、時、亭、ハ、ハ、ん、め、客、と、亭、も、客、を
さ、て、る、り

一 人の客、る、茶、を、其、次、の、者、客、時、い、〳〵、年、勿論、
、、茶、ハ、ら、る、者、礼、を、す、る、年、忘、ハ、上、客、の
い、〳〵、ハ、茶、と、云、心、て、い、〳〵、と、ハ、皆、人、る、年、
それ、て、会、客、ハ、其、次、の、客、も、皆、茶、を、い、〳〵、り
人、の、ハ、を、い、〳〵、て、あ、る、ま、ハ、茶、を、客、て、迎、
た、る、者、の、礼、す、て、る、る、
茶、ハ、き、き、き、年、当代、上、客、ハ、未、度、て、い、き、を

鍋ゟ引出ス事あり　ゆきと茶碗もあつく湯の氣も
有内ニて茶の氣味も有来候ゟ茶のいきと
ゟ一まとゑ〻ゝとかく来ハ皆けいゝの事ニ氣のを内
なゝ上座ニ二人三人めしまして関てよかるべし
一　柄杓ハ竹ゝす一五日ゟ三ヶ月ニ八分ヶ
限一一あるゝゝき来　志ゝゝ益ゝき来ニ

三月晦日初ゟ一竈私宅ニ来候ハ雑談
一　同日常ニ右ハ日を用来いゝ　一
右ハ右用ハ純ゟ拝領ハ来岩代ハ用のふくゝゝの方ニ
道具玉ゟハ元来ニて拝ゟ不申候ハ何ゝ有ゝ
物ニゟ用ゝゝらのかまいたるゝき来ゟ見合ゟ
純ハ惣一て用ゝ宮ゟ
たゝ
一　細川三斎ハ
肥後ニ来ニ持ゝてあゝかまし
一　同唐物茶入の袋金入ゟ不用物ニ
いゝ　谷唐物ゟ結構
不残ゟ純ゟ物一て日用
数不入来ハ紙ゟ

一 教者とは学問をして物の有心なくして誠道理をも
て教者とは学問をして物の有心なる物を学問をして則乃
則の底をして物の底あり〳〵流て有をれゆう〳〵
奇麗なる物をもて底けう〳〵として清く〳〵して
水面水底の為をして物〳〵水の性を全するが如く学
乃問とは心いや〳〵道具をあつめる道理をハ
秘訣〳〵人を達しても言葉道具を多く持ても自慢
〳〵先を人を他をそね〳〵神をして或ハ奢る者
人を学問乃心なる人ハ秘訣乃道具を一生懸命
料理を心を盡〳〵修学者ハ〳〵あるハ
家をたのしまるる人〳〵学を教乃仁者ハ
又教者とハ心のきよさをおとし〳〵川の水乃清き
なく我をたてず他をそ〳〵らず大名言葉と
いつとも為いろ〳〵心なる〳〵修学人なりとしつともいや
たゝまず其人の教者の修学ハ慈〳〵して和をなすく
学問ハ心をきよあ為〳〵まず〳〵とん為仕方
なる為ハ儒学をする人を文字積人を為ハ
心をきよもる人すく為〳〵心をきよめんとの
儒学なる其果てをを楽ま其意為〳〵なて
月のごとく〳〵なす其とく学問ハ儒学
乃文字よむ人なり教者ハ儒学乃心を法とも

人参

一 道具仕覆心持を能く茶入に茶碗に新茶
用ひ[illegible]茶入に茶碗に[illegible]あり釜[illegible]に用ひ
[illegible]なんとして万尚[illegible]三種拭いろし
[illegible]なして有[illegible]ある是茶の湯の心[illegible]
[illegible]道具の意[illegible]あ[illegible]み[illegible]拭乃
道具一[illegible]に拭て[illegible]新[illegible]道具一[illegible]三種の
拭[illegible]

一 利休拭 [illegible]の[illegible]と[illegible]て料理[illegible]とは[illegible]
[illegible]

一 [illegible]利休[illegible]は[illegible]拭の[illegible]

細川三斎様茶山[illegible]
[illegible]て[illegible]を[illegible]拭
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上等品となる所以なり
乃窓より柄杓を出し玄関
其後の有内へ柄杓を取出
玄関とより右の手取方
茶屋の時は洗みうすて
道具取扱
手取の海れのれを以て出
雑水こと人よりまりこと
一 客先と八手貴人なる人主君なと八方とよし
たいていの客を能事すもり而定ても辞退
なるものなり 是も同じ
一 水これ一のとちめを紙醤に客先にて利休に
白道安に渡に同じとなり
水指引切も同じ
一 引切の柄を茶屋のうく方にもけて玉手則なる
柄杓文字とも乃身れ
才に対してうく是八引切と柄杓を別是てれの
うく成道理又引切の柄を柄杓のかを
玉もて柄杓に対してうくなり
一 道具の玉会のうまるとあるうる時炉と
道具に才のうるこうく成道理なる

上等品となる所以なり
乃窓より柄杓を出し玄関
其後の有内へ柄杓を取出
玄関とより右の手取方
茶屋の時は洗みうすて
道具取扱
手取の海れのれを以て出
雑水こと人よりまりこと
一 客先と八手貴人なる人主君なと八方とよし
たいていの客を能事すもり而定ても辞退
なるものなり 是も同じ
一 水これ一のとちめを紙醤に客先にて利休に
白道安に渡に同じとなり
水指引切も同じ
一 引切の柄を茶屋のうく方にもけて玉手則なる
柄杓文字とも乃身れ
才に対してうくなり是八引切と柄杓を別是てれの
うく成道理又引切の柄を柄杓のかを
玉もて柄杓に対してうくなり
一 道具の玉会のうまるとあるうる時炉と
道具に才のうるこうく成道理なる

對してのろくろ又は炭をくべ道具
をもつませもしくはろくろ板の中ほどゆるめてやすくする
少しゆるめてやすくする
一 湯をわかすに用ひる茶釜は
茶市にて求む事 たゝき茶釜すくつきおび茶市
其後水指の蓋の上に乗る利休形つきおび三段利休
高さ六寸六分の高さ外径六寸の形にすべしとなり
此外利休の名に常の手前に茶市を其後水指の蓋に乗
茶碗湯とを入れ点前に用ひる茶碗拭は三度水指の
蓋に手付て入るべしくろ漆塗の茶市を初より
茶市かくさめて水指の蓋に乗せておくなり物語に
其年利休果しる右のきまりを三段利休三段は
出陣に用ひる三段八茶市ぬくさめて水指のふたを
外の用しなり
一 茶の蓋と貴代と炉の内ぬちに悪敷炉の内へ
入れ茶碗の蓋も茶をそそぬぎ蓋の
内を出る事に付き柄杓の柄かのて動の徒に
ぬくさてきえれたる日にも高く成て使ひ
空りしる事八名なり
一 水指の蓋と茶代と貴代と茶碗に元来茶碗
容より湯を入て一番すくこと其後水指の蓋を取て徒に
茶をとて容出しに後の蓋を取て水指の

海苔梅を入れこうむけて水こかしの上に梅干乃
かしをかこそしあるべしぬれたるもの
梅干乃つくりかたは行梅梅干のとくかさり
梅干は結る手おこし梅をかくれ服を紙を
薄紙時は手おを一日一夜手と時すべき手と
一 酒茶を真の手おを濃茶を草の手おとやん
濃茶とて通真塗ぬ人の酒茶とつる事あ
茶碗はおかをを五人茶人大形のめを用
濃茶とて通ぬ客方あを先に通ぬと接待
式接待をもたと家代の者りた家代をやく用のを
もつまらせて居る所へ出ると客のあいさつ右茶
るとこるを出れと云る客と客来に入ると帰と用て
四五人のものの中ハさる濃茶を只やくこと
初ふくみ手おをもとする所茶を只やくこと
見人と客と先に通人を接待有と言ハ用る
古今の心乃道あい
一 後の炭を時庵を炭ハ火多くハ切帰直こと
れとも客の方かもお庵所所とあいさつ
ハ庵のこれ内のあつい人ん
一 真を庵をこと庵あ
ちと五庵あるとこるハ
火のこそいそ炉の内茶炉のぬちをふとこれず

是大事の子うしん

一 右如あすり道具多く客人せるハ不足いたしたるとき客数多屋より出ず小屋ととるるたるハ其日の道具斗を其後出さる道具をハ入せぬ孔うきなり

稽堂宗三郎の数多屋の仕方ハ拍子ときの是にて仕方ハ事

一 茶碗ものとす時茶入をお略会より廣う初さのみ茶ものとんを出ぬ茶入ばかりを紙に紙略会に

一 水をとりて用ひ次第拍子ものと三ツと四ツも さしてしきたりこれ〳〵ぬしたりこれ〳〵ぬるこ

一 濃ふ三拍子ものとす四度の蓋を蓋をむる音拍子のが行燈

一 蓋音拍の通ではあるこるこ音なりそれゆへ拍子のが行燈

一 行燈ハ拍子とは言るるきゆへ拍子ものとす行燈

一 茶入ハ蓋をするるなきるる茶入の蓋の又ハ茶碗

一 ある茶入の蓋ハ用てするこれ多き茶入ず蓋

一 を後ろるれのす（湯入）射し式茶杓に封して十文字

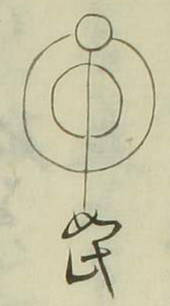
一 ものて是一斗を茶入ものとハ反分す蓋嫌しるこ

一 釜浦紙のるす通をよくよる茶入ものとハ反分す蓋嫌しるこ

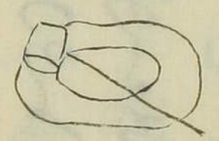
一 客人むってぬすしと通分りる客の方ものこ紙の切月

一 ものの還掛にかるるるす是ものこ人和るき物るれたこ

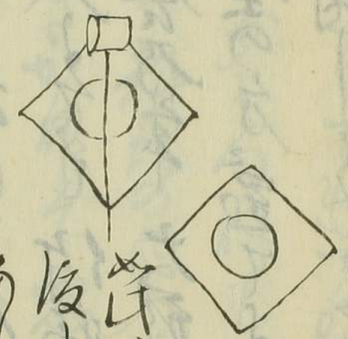
芋胡麻等にて柳玉等も有之ハ夜あけ釜乃
ひつゝあ〳〵ハ〳〵ゝ〳〵てゝ多めかり
一 底を取結ぶ時ハ若を底元の柄にたさるる孔に通し
一 手水鉢柄杓竹手桶九キハ板柄杓自然の長有
のゝ如く樽柄杓なり又玉杓ハ九キハうつ方にて玉杓



長き有らるハ横一寸にて篇かゝて玉なり



又四方なるも柄杓の如ク同等但四方
なる手水鉢玉〳〵板



笠すゝきの
手水鉢ゝ
笠なりて木の
反一かねの孔て
あり〳〵

一 二重花入之事いろ〳〵木の花を上さす時ハ下ハ
草の花をさし〳〵とる利休ハそれ〳〵すいの花も
柄杓鉢に入〳〵なり其外ハ竿草なきなり〳〵と
あ〳〵す云〳〵木有すきなきもあ〳〵す竿を木下
を草と云へ〳〵るハかゝくなめてあ〳〵又昔ハ赤キ

茶を夜たし入さるもしとあり利休それをもかまを
さるもしとあり

一茶碗茶杓玉かいの方と長く柄の方を短くて玉ま

一柄杓かさり玉半當代を炉の向乃障より蒲鉾乃
もしいうもけかけて玉を元織部よりもし
まるも利休時代よりの障よし有之蒲鉾ふ
まゆく柄杓をあらのけて座の方を障よりとる世玉し
柄杓の方茶入すても作物もし玉てよし

一茶入茶碗玉合乃事大形ハ茶入計玉て茶碗
をひきのけ座の方置てよし乃去然しまき茶碗
まて茶入と對しても

茶入とごかくかさりても元茶入平の時ハ水指乃
三本又ハたのかをつれ玉

一風炉の炭玉事料理の内入て料理炭と炭入
作淋を湯をかねて悪し自然市迄悪て
炭料理玉成をハ宗麟掛出内ハ勝手よて
火を起こし湯をとり宗て釜をかけ置て
元亭をのをくいき有

一風炉の内乃事大風炉中風炉小風炉を後小風炉
ふハ戻ハ玉ををる仕様大風炉をかけの
崩る而を見る様京ふけあ世すて中風炉ハ
大風炉小風炉の間ふ又お出玉事大風炉

中風炉小風炉そ遠ハ小風炉ハ土窯をにの方ハ少出して
五徳の二ツの爪とかそ〻けの外と丸ク成申〻すへ〻
大風炉ハ土窯を内ハ入五徳の二ツ爪ハ少かと〻け出さる
申〻ハ出すへ〻二ツの爪ハ内ハ入テ少中風炉そ
はかり五徳の二ツの爪ハ少一所と成り近二分上り迄
海老又武分上り
稲右三寸の内そり高そ又ハ
高そ又ハ せ〻れ

一 大板小板ハ大板そ九月出板土用ハ〻〻
大板そ小板ハ大ハ月成ハ
一 釜の蓋ハ半 尚代そ夏ハ高ハ
あ〻す湯氣をあつくらハ
粉ハ〻ぬ〻をひさと高ハ柄杓
立て成ハ
一 柄杓ハ持て居ハ時風炉の時そ
一 切柄杓の半三分ハ寸〻て切柄杓と云半高〻ぬと
子細を出〻ハ〻〻の塵盆ハ
ハ孔そする半とあるとそ
成と云ハ則世上ハ切柄杓と中ハ
ハ〻て中半ハ初ハ
八寸後湯とハ〻柄杓を
多ハ半ハ
一 茶碗置ハ風炉ハ

可至但柄杓ハ先を茶碗の中すこうくるはもて茶

一 水指の蓋至半たの方ハ麁ハ茶巾ハ茶碗

ゑ〳〵ハ水指のなの方〳〵そかけて至下

一 盆立ニ而茶の時ハ茶入至而ニ而かくりハ先盆ゑ

のせ客の下ハ勝手盆のおのぬちを炉の向のぬちの乃

通ハ至下 其後水指のたの中すこを茶入の向ハ

あゝ〳〵ゑ〳〵ハ盆の有〳〵跡茶碗を出すかり

水指と茶入の間ハ水指と畳の中ゑ下 柄杓ハ切

出〳〵て茶碗をのゝれそこゑて又盆をすこ〳〵出ス

茶入の向と水指のあと間ハ風炉〳〵すゝ 盆ハ

うとゑゑ〳〵ハたのゑを上ニ而ぬくゝ先ハ茶入れ後

おのゝのかねをぬるゑ

一 茶碗の面ハ柄杓を而て後右の手ハ至ゑ

一 九重の茶入を下 指ニかゝる手

一 釜の蓋ハ指ニ而てかめて水指の蓋ゆひこゝ

指をのゝて

一 茶入客ニ出〳〵時ハ手のこの手ハ無茶入ともゝ至茶入

をれ拭客のあゝ出スゑ盆をもとゝ拭ゑ茶入

のあゝゑ〳〵至茶入をのせぬゝ後ハ先右乃

道具又ハ稀ハ道具ハ其ハ之のする手も有ゑり

一 九重を客様の扱ハ孤ハそひのゑゝる上下ス

一 蓋乃事 九重 上口ク 茄子 中ヒク 唐衛

中メカ　庖丁ハ　ヘイデ　大海　文林ヲ分ケル

さてはまりかゝ　まゝ　蓋ときるとまりさゝるかり

一　方盆ニ肩衡ヲ用ヒル　九壺　庖丁ハ　かとハ

とつこゝ　或ハ　乃至　乃ち

一　棚二重あゝハ上の方ニ　何もかさゝぬ　大方ハ

一　好ニ　三ツ　杓の半　秀加　花入　茶壺　床の上の半

一　床ニ　或ハ乃半　軸中　軸服　軸ニ　つれと　古来ハ　伝ハ

利休ハ　ゝ　床を　今の　通ハ　みちかゝ　ぬ　ゝ　大ハ　成　物

かゝ　ゝ　時　軸服　軸ニ　つれの　かねと　おもかり　床を　三ツ

別　具ニ　ツ　又　三ツ　別　或ハ　大形　床服ハ　八寸　升　乃有

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　秘半　ゝい

一　昔ハ　床も　沈付　其時ハ　沈付の　絵ハ　金　かゝ　ゝ　する　半

多　利休　初ハ　唐ニ　する　ゝ　北野　大茶湯　ハ　ハ　数寄屋の　絵

一　法　板　知　ゝ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

一　朝茶の湯　七ツ　釜　仕ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

一　胡茶の湯の時　釜のに　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

作て　此　中　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

あんどん用事に當代朋輩帰宅遅く燭持て
迎に出し草庵の用意あるべく事なるべく事にて
沙地あんどん宮下さる事にて
一炭仕廻てあんどん庭の方流つる上を上れり
夜の用ちつきあけ時刻知る法あるべす先人行と
いふものに夜がらをあけみまかせ時みて
時に之夜中に上れりまた数寄屋の内の次第面白
とのなり
一たんけいを夜食用に第と時手燭を出し第せん
すぎといとし兵あんけいに第るべく手燭有
元年の朋輩夜食用に第と出るよきなり
一あんどんにとまりてあんどんとあるよきなり
炭を入れ時かすに入れり
一床かけを掛といふ事床三方一ムに出あんどん
あるなり
一あんどん神ちり数寄屋ぶりしまへ時すわり
ことり悪し宮乃事おに腰おとしまつすれば
扱並おことりにしかしまる所すれ事
一基月巳の事 そのの内巳金一切
四月十日一菴入来終日雑談
一時かし茶扱人深光羽関ふと時代用昔茶扱
茶の事ふあんどん用に竹茶扱と同時代にて今も

第弟尚ほとたい入テとヨリ写ス由

一 炉九月末十月初めるる風炉を三月末四月の前ま
すめる意今日るてゝ綿入の小袖を取会ヲ下しよう

一 板床ニハ洗板志ヲ下ヲ由安上ヲ下ヲ入ル所ハ洗
三ツ所ハ寸ヲ下いうまもの世て紙由ヲ下ヲ鶴籠板
絵入ハ水不打及志ヲ不下由

一 四角絵入を地板ハ切ル地キ絵入を角の地板

一 地板板の半檜三月ヲ黒漆塗地と不成本月ヲ成
いうすゝ紙ハ妨ちの志ヲ紙ハ行を三ツ割の形ハ
妨ちを武枚まるる板も成ヲ入うすくと成伺も
本を洗ハ之ハ紙ヲ下ヲ

一 六角八角乃絵入ハ歩ハ方ヲ墨ヲ紙ハ歩ハ成カ
せまるる

一 胡粉帝香箱墨合乃手物ヲ碗の方ヲ
墨ハ也も香箱胡粉帝ヲ長キヲ
手ヲ入ル

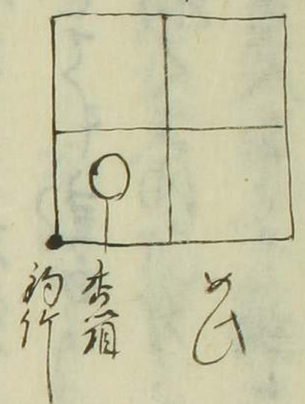
一 妨の漆ヲ布袋連歌ヲ香箱の図乃ヲ
ハ付ヲ也ても成ル

一 洗行妨くさゆひ付ヲ絵角板より手束之ハ板の
事ヲ貴人ヲ上ヲ詰ハ伺ハ志ヲ事ハ心あキ友
ヲ上ヲ志ヲ板ヲ成ヲ時用ハ

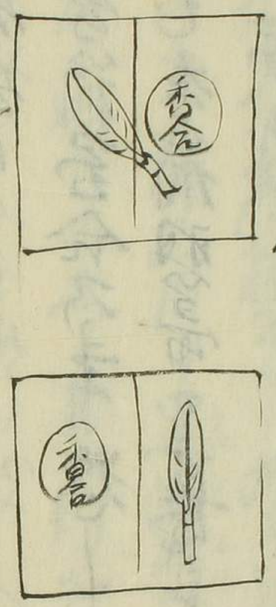
一 板ヲ上ヲ妨くさ絵付ヲ香箱墨ハ棚四ツ割洗行乃

方の寸法の三中に置き秘事とて更に無し

てもよろしく中に物をしまうべきなり



一 香箱明帛併時棚の中すミヨ 香箱の端に掛けて置こと



つまも置こと

一 花入折釘下の通りより四尺(但床の上より五寸)

寸法利休宗匠に付此有こと

一 掛物乃竹釘は月を下へ五寸の頭九分

一 濃間棚香炉式を菜入歌書ふ玉手箱等下

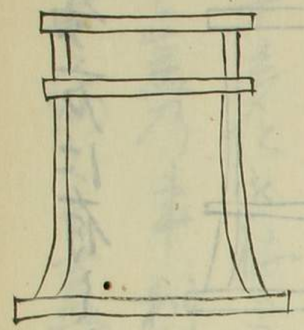
惣して二重三重あるハ二重も置下(但上の棚より

不動紙あり又道具ヨリ色々二和たく事嫌ふこと

一 中央乃卓八天下三ツかゞて八寸ことに

寺方に有こと今そ八宗元帥西

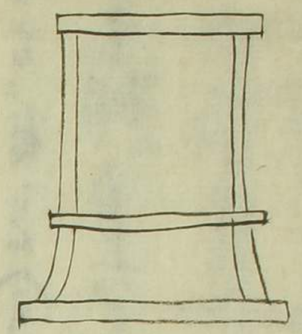
一 二重棚も上に何と玉明紙之下と中半に



上に利休棚と申由

後の人乃作と相見えよ

一三方に有し棚を



棚にしたもの

一風呂のかまはゆうに柱の中すきとおるべし

一あんとんハ炭つきやすいかきたてやすい

一湯殿の時ハ湯桶の器に柄杓をとる也柄の方に引切も

業入ハ玉ゆ

一窓をあける時ハ桐竜柱にも立かけ湯殿ばりに立のけたる

作るも不入成しにもて

一利休百ヶ条と申ハ大ハ偽にして

一古織傳と申ハ成事多ハ空ゝ紹鷗珠光

ゆとの事をたゝ事を少をつたる者元京都にて

それ〳〵に所作にて仕申ての

一三畳一庵宅にハ出ゝ所ぬゝ羽箒ヲのせて持ゝ

外ハ茶湯出来ぬ羽箒ハ不足と

何と成ても後悔しん

物念に仕ハ其時分ぬゝ小ゝ箒ゝ羽箒と三ツ玉ヲ

事多と仕ゝ

一ゝ蓋乃事利休ハ乃大キ物ゝ茶入而持ゝ三ツ入れ後

ゆて何とて蓋と申ゝ

あるゝ人ゝ

はて[illegible]蓋[illegible]

一 瓶子蓋ハ象牙乃末にくしけ[illegible]半むしの半と又て
くるとこ三ヶ所[illegible]

一 瓶子蓋乃時ハ茶をすくひ不申おハすんとの頃、茶筅を
うけむけかけ申候ハ常のことくに

一 茶筅すゝきハ古流に有之候茶せんにたとも申茶せん
ゝ申ものに

一 三ヶ所乃風炉大佛に有杉間寺と申ハ夫に利休又迎申ハて
一宿の時宗及も近き申ハ堺の茶湯者ハ[illegible]
明智と宗及と申ハ[illegible]利休何とハなきん
[illegible]九ツ時[illegible]三ヶ所[illegible]

[illegible]利休を
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]地に[illegible]利休拔つき
[illegible]三ヶ所ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

者之連歌師とまた同名あり〻後をうけつぎも夫〻
言傳の人で不持の用くし者のつきを用事 其一重
しの事〻毎月のる此所に所の七つお勝〻の戸を
さゝきやうに水を惟〻没て来と
やうとと笑へ其時三所も利体もそれと長年に
見宗及一代の出来事場をるゝと感田三所
物使所

一 手に物の水物てハ正に水をすもよく仕
ゐ〻ハ江の方ゝ宗くむ〻ハ
切角水ゝさす時世と云ハ浄土行の時ハ加茂の蓋
引印にて水をさす

一 也と十〻宗浄行に元祐行宗浄行の時ハ蓋釜の蓋ゝ
し〻行に物ゝ入時ゝ蓋ハ釜の蓋ゝて
茶巾を蓋て入へしてゝ子細ふ〻の蓋又行に
さ心よ〻ゝさる蓋ゝ

一 ゝ物より塗行に春ハ〻行に
炭の塗ふち白ゝと同ゝ

一 岡の瓶物を絵を付ゝて塗有ゝと用テ〻墨硯
ゐよ〻ゝさる〻

一 茶入の茶たゝりのひゝをゲリムといふ茶ゝあり
さゝるとハギノカドリよ

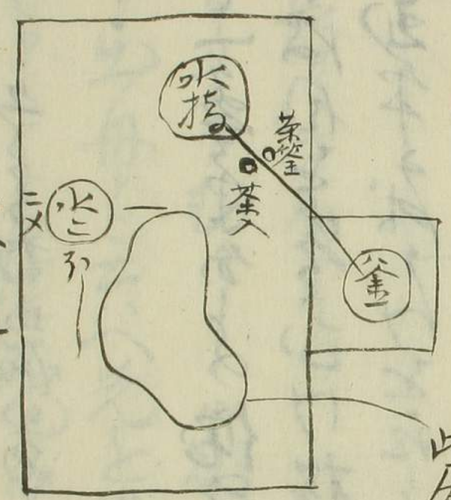
一 香炉煙ゝ〻に老ゝと云ハ唐物屋の品ゝ

一むすびせういとかくり一度のいもせがいとかり
一紙を金年茅紙にたつるとへて紙梅芳系
ゆりとも存の四箱をつるへし本の紙成程かしきの
紙なり
一魚之時茅入玉時程の四法と茅の和法とろくに玉
金梅をつん
一三つ碁盤目玉水ゆのあと茅碁の和法とろくに玉
茅碁四角て茅入有年光勝玉ゆを茅入を水ゆと
りつとめの三年茅入の和法と水ゆのあとろくに玉若天目
茅入と對して行なて茅入を右くよせて碁天目玉
茅と碁との間見通の三目に成のあきは各同茅に

一天目は陽と入茅をんをすきき柄杓の柄の方玉天目を
水こすしの先に玉碁をふせ天目の陽とふし碁
盤をうく与手に玉茅入茅杓と天目の四を打玉
天目の四先を入て玉なり
一碁天目成あつい右の人すし杓と大杓に天目を打
小杓に碁を打さんたのよくに碁を打
一茅ゆ茶に向むし八三に茶合て碁とそなしたに利休
仕習て始より碁とそなしー上座の方玉天目と
いくさき茶をそ當代一にて碁とそなしり
光信の人の作を又人
一天目海一所碁と先天目を海に

一 大花形にて高さ下けより釜座迄寸六分
中風炉にて寸巾弱中花形にて寸二分程
一 花形先の屏風と中板との巾四寸も五寸も度陳
ようにて其時々もくるくるかわるべし
一 小板にハ寸方四方大板にハ五寸五分四方
一 中花形中花形ハ大板にて大花形ハ小板
一 風炉にて釜の内釜と水指の巾五分
茶碗にハ水こぼし一の先に柄杓水こぼし柄杓のもとに
後茶碗にて茶碗へと云てお点前と
ここにて水こぼしの先に点前とぬぐい茶碗へとさしあ
釜の上に茶碗ハ右の巾二寸四方

一 四畳半にまして茶入茶碗釜と水指こっ筋通りハ
さて棚に茶碗と釜と水指の通り茶入と茶碗とこうして
五番の作図云



此居合ハ宗庵宣ヨリ賞
吟味上

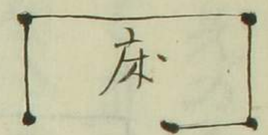
茶釜と水指の
ふりとの長
水さしの方
ふりとの

水屋ハ
ひさまるる棚

一 棚物ハ三方上りに棚と世上ハ必ず右ハ
其上に何方のとくるき方一分程下る事

一三つ行 掛物かくる事 上座より掛出す

一床天井上より迫り四方 板をくさる板間床とやいふ

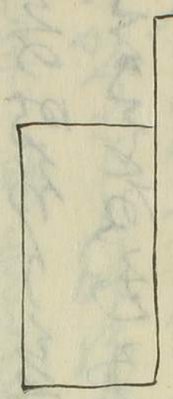


さる板をいとやいふ床掛物掛しく
さる板かけいるく角の隅のまんなか中央とこと

一掛燈籠を一ぱいまかしの俗の座敷より掛行下る
ちゝ尺七寸は目を定むる板にけ七寸六分

一あんどん五年成りをゑとやいふ事 是三分一花
とくりの成の四に有る事 好事なり何色の脇を乾
成の方を定る

一ちんけいはゆつる板の方を定めり迫りをたんけいの
巾三分一ぬり塗迫りとたんけいの巾の巾二目



一天八乃行長サ八すんのり

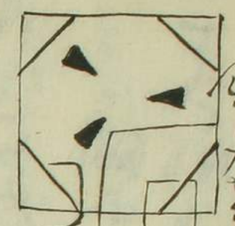
一舟ゑはさる事むりハ胡八出舟吸八入舟山舟と
さるのり出舟と云八先を岩いゝ入舟八を脇ゑ
後山舟七ヤこゝゑを取出中ゑ仕道事多ゑ絵を積
とやされ入ゑもゑを帆柱の中ゝ葉をろの中ゝ
ちゝるのり利休八ちゝ事やぎりいるも出舟入極
入舟山舟八岩あくゑしまりゝかゝるとるの

一 出舟の入れ先を宮の穴へ、ちとうくてその方に敵舟を
風炉丸にいろり切手を拵ふき事とし
一 石のすへ板大庭ですくすくてすくすく四方よ
ふくしゝ鍋釜こすへ物きくき物すてゝ周の炉地も
石ちいさき鉄ろり鍋が鉄ろ手初りすへ
ろくしゝ中事迄しゝ何そのまゝうめとてをのと
水程成石ろと有られこいらす鉄の
一 急之の時ろり急ろくハ芝段急時なの手を
かいさきを成玉事とし
一 伊藤將監を安吉公の馬迄すくに三千人
のあてがいとし成

一 洞元有し座敷立板別義をに
一 花入に芝貫流立を書院として入り面に居先利休
花のかつて鉄瓶と外知りの
一 四畳半に棚を成洞元用し事常のすくに
一 角柱に段打手事有度浦まして入る事とし 行
床高さ

卯月六日 糸会後ノ雑談

一 炬の円ら事 四ツの角にも 碁盤ニて段事



一 三番碁の内を極先或ハ 此列中ハ三番碁の内
合点ゆかさる事 三有先之番 先之番 複の物数奇右之
仙事も 利体物動くこと 新浦事を
ありなを炬の内を見しつゝ 二度半まて ぬくさ度
すゝらすかさくてゝ 又ハ五徳板出 史度ふく
すさまゝく尺くゝ 三本窩の内一巻物決ハ
則三番二巻右之ハ三番の内或ハ碁湯位ハ
必須左右ハ 手ハ内を内 知有之 先新浦作を
せさるゝ 内 ハ手の當ハ上手より ハ
夫こゝ一乃上手ともの角ゝ 味して道具あ
ゝこゝ ゝ 動て見て極動ゝ 更
新浦作をする 有上手 共悪浦 のけ事
今すると思ふ 下 新浦作 一段 ハ 碁盤
所知者ハ 碁さすれ 作 又 中 ハ 度
乃ゝ 浦手 ハ ハ 又 碁命を
ゝ 也 其 度の ゝ ゝ
ゝの仕事 ハ 度 ハ 度 入 度

後月のくすりに又五徳ぬき出火鹿ふりきとやハ
鹿角と云るをもくすりとしてその事くすり有て紙袋
仕るる能く

一 同炭俵真草とやハ云こと
若年こと紙巻紙すき跡の物仕るる位の人す
事なり 如此の事と真名のことくて中ハ利徳の所代
真草の此なるくに量よりて真草の量を有こと

一 同俵くし水桶とかまへのうちいり俵くし能く
若二寸五分を能く

一 同公事紙巻紙の 若ゆるこ程ハ四寸程下をてすか
二目程のけて為て能き事

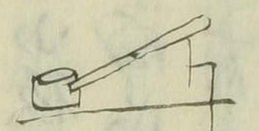
一 同屋天目の時て必建盞の形ハ天目の形に
似こと第とん多くハ云る盞茶碗ものせてハめ多
有こと 若其ハ七ツ茶碗こと

一 濃茶立て後薄茶を立てしと立ハ云ハ云ハ二服
立て出すこと若その一服と必ず仕るこ云ハ
仕て二服のつり 如此ハ濃茶一服と又薄茶
より出しまる薄茶と二服ハ為をてふくとて婦
事なる為神に立出すこ茶ハ成ると小服二口程
立て 茶より必ず中すこと五二服ともに大服ハ
茶あくむこのこと小服にして上客人外
こてのむ程にてすこ 二ツなるものハ成程大服にしてのむ

実行もすい茶いろ手心得こと山ゆ（ゆ）もと
二服の茶とてつくるみて柄杓（茶の）に湯二ツ水（湯の）を少入（此之云か）れ茶筅口行少行へし
一 同利休小壺と中壺（大壺）とを云有こと
茶有こと なて拙ク有い
一 同茶中小板玉手めの 茶水を持時注手
湯のこと（これ程有こと付手ゆを蓋して小板玉水持
蓋を蓋て一柄杓水を釜入ラ板湯を沒て茶筅うち
仕舞ッ一柄杓立と中心同ク八ツ入手イ 紐口行アリ
一 同世上こし九ツ炉 角ツ炉ゆとそて有こと印之こと仕舞
釜こと九ツ炉を用ゆる釜みた角ツ炉を用
用ル古来こり有手茶筅こと大ツ炉中ツ炉

小ツ炉とて三ツ宗ル（少麁ル鐵炉ハ宗九小板）
一 同小板武九ク武八角八角こ陸めの茶まも茶こと
むこ〳〵大ツ炉の小板を中ツ炉の小板を二通宗リ
一 同小板のかこ 炉ル炉あこ 炉ル炉茶ゆ炉
一 同世上六板ゆとヲ有こと由形ゆめ茶こと手い
一 同板茶の柄杓のこと炉の茶人の ゆとあこと
こと板ゆ 手こい
一 同ツ炉こ炉ゆこ所汁を用炉こと 一ツを用手
めの 茶其ケ中傳こと板ゆ乃等 ゆて こ筒
中こ茶こ物毎こ中こ 中こ五こみ行こと茶よ
あこ手こ所を用夏こ夏手 手ありこと茶ふくき所を

用ひ茶入等を入れ置
ける物あり底もあるあり底なしあり
かくてその茶の種類にて風炉の形も脚のかたちい
ろいろあり底に汁をこぼあるき風炉乃
内のれて居るゑ迄海内あるき風炉乃
柄杓立茶圖のとく



一 尚炉柄杓八寸
風炉八六寸

茶筅に種類多し　茶碗の深き浅きにより茶筅
の用る茶とす

一 茶碗の寸法大小ありて茶筅の同同年も
あり色色決定の事作のあるもふき風炉入てゑんの
ものなり
一 風炉の時と炉の時と茶筅茶碗の同同年も
一 行に出る時は茶筅出すに木を用ひ
一 春の茶碗を炉のうちに用ひ　茶碗ノ大小ニ応シ
一 茶碗の時に炉の時に行に入り
一 茶巾の寸法八寸五分又八寸之長サ布にて有り
一 同茶碗に仕廻ひ出す茶碗を入て炉に上に置
出すこと　答なし
一 同風炉にて茶筅立に付て茶を茶碗に

入れてそこへ氷砂糖を薄く延ばし　各種

一　同張茶の後茶を入れ　茶碗に

入れて　茶碗ちやうん　茶碗

一　同梅花地の打上げ　袋物の打上げ　各種あり

磯辺の形より二寸七分四方　厚サ七分

米ぬかを梅花のかたうつして　五分ほど

のかたと地海苔の乃至　各先それ

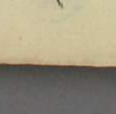
一　同茶入　秀谷焼　伽羅　各種

一　同茶入　秀谷焼　伽羅　各種

小きよ、焼物を入れ出しこゝ　もふ芋焼の八分　半ノ

伽羅の白きをんとゝ　伽羅とたき物を入れ出し　鉢に同ゝ　茶入二重　秀谷

かるまゝ



一　同片耳の茶入　各三度　茶碗の代

入れて耳を入れ　使ふ時　蓋に物を

たゝ　結ぶ時　耳に

まちく出し

一　同茶入持紙　各肩衝　小形　茶入の底

あて　茶碗　二つ　大海　手の腹の　世て大形

入の肩ゝ　持紙　各形

一 閑粹庵の花入なすかの形左に右

大形か様の物ハ唐物用候

一 夜会なりしハ掛物を取花なとも無きハ利休
より具様なく候

一 風呂釜したるんけいハ不出木地臺かけ炉臺の外
鉢ハ俗の座蒲によるなり

一 茶入と茶碗と對して有時茶碗と右の手にて
さけ候ハ茶入と茶碗の間へ手を入て悪し

一 茶碗より茶せんぬく時茶碗押へる左の手をも
とゝめぬく也

一 茶筅とりあけ時は湯を入て右の方あけ中程にくさく
候へハさく湯斗かけて茶巾をも指しにま茶せん
まてつくさ茶をさかるにて茶かくします候としてちゃ

一 風炉にて水指の蓋を取る時水差の柄はのと柄杓の柄の上
とそ茶ぬのある也取てききしい

一 仕舞の時茶巾かまの蓋茶入へのせてさえきてたえ仕舞
くらくへにさなくハ茶碗の内おりしく候仕舞
なる茶碗の時ハ柄杓さえくかゝし

一 茶仕舞茶入の茶碗出し時茶へ茶入蓋を取て左の手て
茶入とおくりせふくさしぬくいて出し

一 風炉くし出と蓋置同通に置くれハ水ぬくさく候

一 茶筅の時ハ茶巾の後茶の上ゟ茶ゟ湯を水さし

ぬるゝ上ゟ茶ゟ湯

一 風炉ゟ柄杓置所ハ先ゟ柄杓ゟ引寄事 茶筅

ゟハ柄杓ゟ外ゟ〳〵ゟ柄ゟも水ゟ柄ゟぬぐゟ切ル

出ゟ事ゟ客ゟ客ゟの内ハ未柄ゟ志めり氣ゟ付ル柄杓

ゟ上ゟ湯ゟ〳〵ゟ門ゟ中事有ゟハ夫ゟ先ゟ柄杓

志て其ゟ後門柄杓ゟ置ル水ゟ時ハ水ゟ

柄杓柄ゟ事ゟ多ゟ茶ゟ志ゟ柄杓ゟ置所ゟ

ゟ切ゟ

一 客ゟの時ハ白湯ゟ釜ゟ蓋ゟ志めゟ

一 茶筅ゟ茶ゟ湯ゟ入ゟ前柄杓ゟ柄ゟ又釜ゟ入ゟ

又ゟ〳〵ゟ数寄屋風炉ゟ柄杓ゟ入ゟ柄杓ゟ柄ゟ

ゟ〳〵ゟ茶ゟ〳〵ゟ柄ゟ〳〵ゟ柄ゟ

一 風炉ゟ茶ゟ〳〵ゟ茶ゟ〳〵ゟ茶ゟ

茶ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ

一 風炉ゟ茶ゟ〳〵ゟ茶ゟ〳〵ゟ茶ゟ

茶ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ

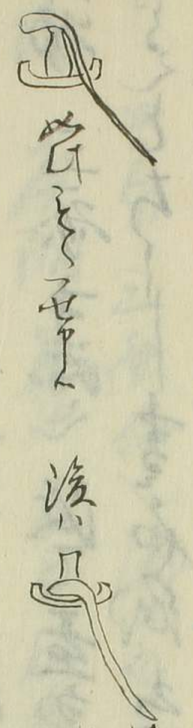
一 茶筅水ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ

柄ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ

一 ぬぐゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ

一　たんさのうらに半世と云て大きなる世半田と云小さなる
ろくとて色あるものすりくしぶ大きなるものこげ丸小さなる所入ガ
一　小座敷を道具とて大きなる所ヲ用ゐる紙
茶入石ものなどハ真ゝを茶入ゑて内道具所ゝ客より所望
さるゝ時ハ道具にすくわめさるる所えん紙白ゑ
唯感して所ゝ貴人の御近ゝ自利切ゑの人ゝハ
紙道具ハ紙と云ゝ又真ゝ出しの道具ハ
とて天しゝ茶の湯せて唯人ゝも参て紙
一　茶花ゝを見ることゝ思ひ為ゝ紙と知ル心
あり出来玄来真ゝの心有真ゝの心あり
ゝ茶ゝを客より強ゝ会ハ真ゝもけいてゝ茶ゝ紙

こてゝさる物ゝ
一　紙ゝ蓋ゝ茶杓ハ初ハ



ゝ前ゝ主て常の
茶ゝ茶杓ゝさる世
さるゝと同ゝ為ゝ

一　岡小板唐板の拵ゑ谷小板板の四目ヲ紙けゝ
末目ヲ紙きあとくの為とめんどゝ紙ゝ紙ゝ仕茶杓
紙を唐ヲ或ハ紙ゝて茶ゝ紙ゝ茶入ハ八板
布をきて黒漆ゝ入ゝる丸唐板板ハ小とまるゝ為ゝて
竹を二ツゝとゝ紙ゝ紙ゝ紙黒ゝ為ゝ漆ゝ角唐板ゝ色も紙
を三ゝ八布きせていろゝ〳〵ぬりゝ二三ゝ也人拵

その所の図板を彼茅屋
一 惣而あんとんく七寸上の横ますまてそく花瓶と年
ともそ〳〵ちんく中程を信へ

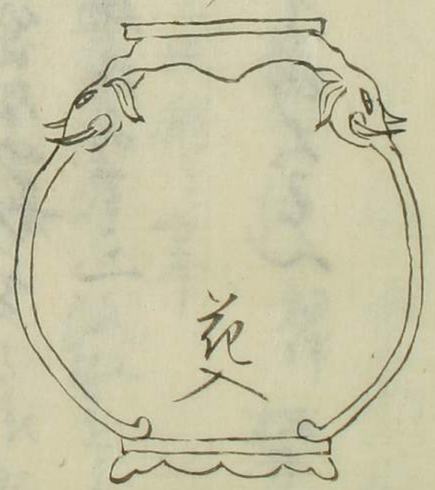
延寶元年十月三日一鹿松寺に行 樹 桂井半平
茅の場所所に茅を植ける田畑こ年
一 掛物 三枚 辛酉に改て蓋をしと
すこしとちく書面紙にて 歌ヲ入る様子
一 茅入 鹿ゑく 光源寺奈良院御所ゑ昔て
御到来ゑ少に遣ス所也

一 盆 朱塗ゆ一の形こ
一 茅屋 ゑ藤新
一 笠 四角ゑ三枚好こ 御の笠花の新を
一 水次 唐阿 蓋也 蓋到に用れみそこ
一 中風炉
一 茶入 竹利休作 茶入ばゝ〳〵の大ゑん
一 茶杓 利休
一 水指 相馬焼
一 香箱 唐物深ゆ 四角ナル角カケテの蓋也
一 度瓶
一 掛物 法源院 震筆こ 竜虎トニ字

一 香臺　象牙　一 庵好
一 香炉　白獅子唐阿一匹ずつかきて
一 花入　唐阿香臺の下有白雲を入当のこと

高サ二尺
横 一尺六寸
上七寸八分
下七寸三分

香炉



香臺の形ち圓のごとく

十二月八日 一 庵に数寄に行 相伴大学 松井半平

茶湯所役目年之儀之事

一 掛物　墨蹟　智業
一 茶入　いとのごとくにかけしにおかりかたち
　　うつくしやそのこのめて心の疵ならしかりし
一 茶碗　高麗新
一 釜　右同
一 水指　高麗　青磁　熟草
一 花入　竹利休　花梅
一 茶杓　二本
一 香箱　右半日代物
一 水次　花瓶行口

座敷

一 掛物　宮舟　耕作の絵

一 金山　もく庫文書ありの書きの上に金山をうれくり

一 服の書掛　花竹　硯箱有　長箱　唐絵巻物有

茶こゝ深雪座敷　行岩舟　挽茶有

奉行与市　實盛

一 庵もの絵　波に八紘　ふすかくる　一服畳

一 何乃武蔵と見　白露　空蟬　秋雪云　布引　大白滝ノ与

一 諸家　数寄屋　生　谷　脇ノ中座敷ハ不苦

一 同さゝ筒八用ル　石用ル　かもくすかす　笠ノ

切ハ〳〵ぬ　ぬ　茶こゝれくり　十ル

一 輪にすゝの手いく　石柄杓釜　たゝて　炉縁と柄杓

乃柄と八分ノ輪のひくさ八分六分ノ

一 脇掛　硯ヲ　ヲ　不苦

一 数寄屋の掛物　石不苦

汁　かゝち　朝の中打　ゆゝ八初ハ　八後茶ノ

鱠　朝　たろ　ち根　栗　ちゝ

抽の段　かゝ　こゝ

焼物　鮭　うるき　蒸鳥　鴨　香物　吸物　有あゝ　焼ノ

座敷　炉辰　蒸鳥

月日ふ見一庵ノ行　数寄屋勝ゝ見

一 掛物　一山　茶入　新　茶碗　ゝ茶　ゝ茶

一 水指　青色ガ絵有　茶杓　紙師宗
一 花入　えんの上　以右之所所作之　肥後守

座敷　掛物　永夏ゟ

料理

水貝ゟ　汁鯉の切ゟ　指身　鯉ぜんの条

右之ゟ　この条ゟ　当年ゟ　書ゟ　て　落ゟ

武口義平書ゟ　勝ゟ

十一月九日一庵ゟ　茶行　お伴　塩瀬

今度ゟ　洛北初る一流ゟ　見ゟ　茶湯

茶ゟ　勝の流儀

一 掛物　大徹宗釋禪師　茶屋ゟ十枚

一 茶入　中古物　肩衝ゟ口ノかけ　黒漆ゟ　紙ゟ　初ハ

松平飛騨ゟ　有ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

一 茶碗　新ゟ　唐文字有　日ゟ　須磨口ゟ

一 釜　ゟ

初ハ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

釜の色ハ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

一 水指　宗燒ノ絵有

一 花入　三種の三重箱　上に梅下に菊二色にくれなゐ

一 茶碗　利休

一 香箱　さざんくのかねのかき焼物入　武州石の立ちもの　仰清水のもの

一 水次　瓦屋行平　明石　鳴ふくろう

座浦

一 八角釣釜　仏蔵有　ださき桶水指

一 掛物　洞雲寺山水　盆山

一 ちゃ壺　あさうけて　ねれくり　茶ろ　源兵衛　座浦行

岩舟検挟　茶ろ　手ぶ有　宗原命　清水焼茶碗　手ぶ地　ちゃし

数寄屋　ちゃ料理

汁さいさい　汁四　あさうち　脇ばく　焼物　ちゃ

かつを　ぶりの子　こだちうり　生子の煮

氏料　伊勢のぶ　ちゃし入

香物　源兵衛　千代

香煎　車海老焼　源兵衛座浦にて

服の紙　扇の紙　紙のうちに三重ちゃし

女郎花　花のやうにして　花ちゃ

吸物　ふくさ味噌　吸物を汁にして食べ　香物

こうやどり　ちゃ　ちゃ

豆を小さ煮　ちゃうの焼のかき物　大とり　春の椀　はせ　生姜

めせ　大ぶ　菊の花を折り　春の立ち

こくせう　味噌　ちゃ　ちゃ

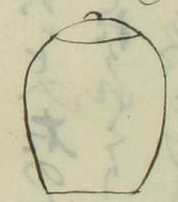
せんこう　ちゃ　ていねのもの　大人　こくせう　五十八の椀の　茶

ちゃうちゃ　ちゃ

卯三月九日一菴行宗丹別宅　石紙哲

茶の湯出来　ちゃ　饗の次第

一 樹物 昂那在庵観音 湯之丸庵漬之丸き 樹物手作り
たさつけ〜〜れ
一 菱入 ありも〜〜の 手ぬぐ 正則 ぬが 菱〜〜〜
一 茶碗 茶戸焼の〜〜の 極〜 かき地 白〜〜 けめ 手〜〜
一 中風炉 釜四角 湯の〜〜 とぬや
一 水指 唐物いと〜〜 唐見〜〜〜
一 茶杓 利休
一 水次 唐銅



一 菱入 朝鮮焼

一 さいら〜〜 唐組 羽帚野原
一 水こぼし 二ツ戸焼 雲〜〜〜
一 唐銅

一 樹物 雲母 山水一幅 〜〜〜〜
一 香合 清水焼 〜〜〜〜 香箱一
一 唐銅の風炉
一 唐物筒釜

一 体豊有上 〜〜〜〜〜〜 茶碗其〜〜 〜〜〜〜 筒 〜〜
茶碗 茶巾 茶せん 茶杓 右茶碗 茶碗 釜
炭 道具 記 〜〜
茶〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜
一 焼物 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜
汁 〜〜〜〜 酒〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜
香物 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜 〜〜〜〜

一 春ごとに咲くら[illegible]

猪口 [illegible]

一 浅瀬 蕎麦切 [illegible]

吸物 [illegible]

酒二徒 [illegible]

肴 海老 [illegible]

浅瀬 [illegible]

一 利休 花入 [illegible] 二重 [illegible] 花入 同茶杓

[illegible]

一 一葩 [illegible]

利休 [illegible]

一 白[illegible]の瓶 布川の瓶 [illegible] 平家白[illegible]

一 一葩作 [illegible] 茶の湯の[illegible]

毎[illegible]

卯十月廿八日 [illegible] 新宅 [illegible] 作

[illegible] 同茶 [illegible]

一 [illegible]

一 茶入

一 茶碗

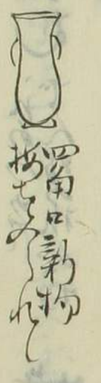
一 茶杓

一 花入

一 水指

一 水次

一 水こぼし 同茶



一 香合　四角かたち

一 懸帯　大多

科理

汁　つゆ　茶碗　でんがく　焼物　一位鯛　香物いろ〳〵

菓子　ろくとうしろけ　あつ物　茶碗　白酒

茶菓子　三月節句

生酒

一 掛物　芦雁花の絵　香炉　三重　蓋　蓋　蓋　蓋

一 図炉裏　汐釜　棚　こまの香合　五月節句

茶道具　名記　茶碗　雑法　心得

五月七日一庵入来有雑法

一 向後茶入つゝより初りは　茶織部時代より初し

利休時代は本焼茶碗　焼茶碗

一 口伝　茶いろ〳〵

一 書院　書院　書院　書院

元亨元年　世代　明智日向守　初る　土器

生〳〵　信長　弥〳〵　元日　茶の

作〳〵　生〳〵　弥〳〵　信長　茶の

自分　作　信長　茶の

生田　世代　光中　茶の

尤御成の事ハ（いろ〳〵）かるき事ハ（ハ）信長公
御すきとして（ハ）茶屋ハ茶ハ信長公ハ茶
ゟ唐物ハ名物ハ名物ハ信長公ハ茶
又ハ茶道ハ茶道ハ信長公ハ茶
職人ハ〳〵日用ハ茶ハ茶ハ信長公ハ茶
しゝとて屏風ハ上の間ハ二ハ唐
手振茶ハ海ハ唐ハ茶ハ唐

三ハ物語ハ

一 向茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶

仕物物ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
直ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶

一 水指ハ風炉ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶

一 ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
向茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
風炉ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
乃時ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶

一 上ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶
朝ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶ハ茶

以敷茶碗の内すすぎ清を半分上まで
敷茶碗にあつ　さ時分も敷茶碗
を敷茶碗にあしらいたる仕様を上手下手此格別
中し物に付注ス　針ヤ字を世を

一　茶碗より湯桶迄上敷茶碗やの内あつく成へきかを
つゝ釜をとりけつらん料理をしすゝ　れ敷茶碗
取さきり

一　なをハふくゝ　ふさいろとつ　茶を茶碗に物へ

一　釜ハ茶碗を茶入ハ敷茶碗　遍員　水指ハ釜とも　花へ
ちくさを　ぬくゝ　ハ　花

一　きろ　ゝ　ちを　花ヒタ　トンダ　ユビタ　ヘツ　ウタ

ミシミタ　ヒを　亦武ハ有　人ヲ　ヌタ　人ヲ　ヒを

一　茶人を形と　京ハ　ハ　すゝ　ハ　ハ　ハ　を形

一　ハ　京　一　用　京　を

一　流茶し時茶釜を　ハ　ハ　を

一　初茶せん　ハ　ハ　の時　茶を　を　時　水　の時

一　茶の茶せん　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

一　濃茶　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

一　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

一　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

乃以あまり茶碗にて茶を点てきこしめ

一茶壺網掛して口を結ぶと雖壺杯にはいりさる事と世間網無之ては結ぶ結

一問屋の四畳半の時風炉の底無之哉の炉の

一青磁の花入と籠花入とは水うつ事なり籠の花入にもあれは水を指しても指しても

一野点に成る時は行灯を使ふ袋にて三本足と

一茶杓は竹と木と大小共遠山と数寄屋

一茶壺に備る事四つ有つくり

以後之書物不残授與せしめ畏

仁義礼智信

記也

爐縁外法　一尺四寸四方
同厚サ　一寸一分
高サ　二寸二分
メントリ　三分
爐内法　九分
爐段　一尺四方深一尺